

## 潜入！東二見工場 激変の山陽電車 3000 系

いつも記事をお読みいただき、ありがとうございます。日々、JR 西日本の網干総合車両所明石支所で 207 系や 321 系の車両メンテナンスをしている、編集部のシュンです。ついに鉄道会社の垣根を超えて、山陽電気鉄道さんの東二見工場にやってまいりました。こちらでは 3000 系リニューアル工事を 2023 年度から施工しており、記念すべき第 1 編成の 3072 編成がすでに元気よく走っています。

今回は、この 3000 系リニューアル工事の第 2 編成（3068 編成）を取材。他の鉄道会社の車両を間近で見る機会は滅多にないので、非常にワクワクしています♪

### 客室内は丸裸で、何もありません

3000 系リニューアル工事のメインは内装です。施工は、技術力に定評がある JR 西日本テクノスが担当。どのようにしてリニューアル車両ができあがるのか、お届けしたいと思います。



客室は丸裸で、全てがむき出しです。

工事中の客室内に入ると、化粧板は剥がされ、断熱材も無いという、レアな光景が広がっていました。ここまでの大規模工事は、なかなか見られるものではありません。

ドア周辺がキレイになっていますが、そこには補強材が新たに取り付けられています。これによって車体強度、安全性が向上するのです。

補強材の車体への取り付けは、技術が必要になります。状況によって、車体に若干の歪みなどがあるためです。

**ガラスの取り付けは力加減が大事です！**



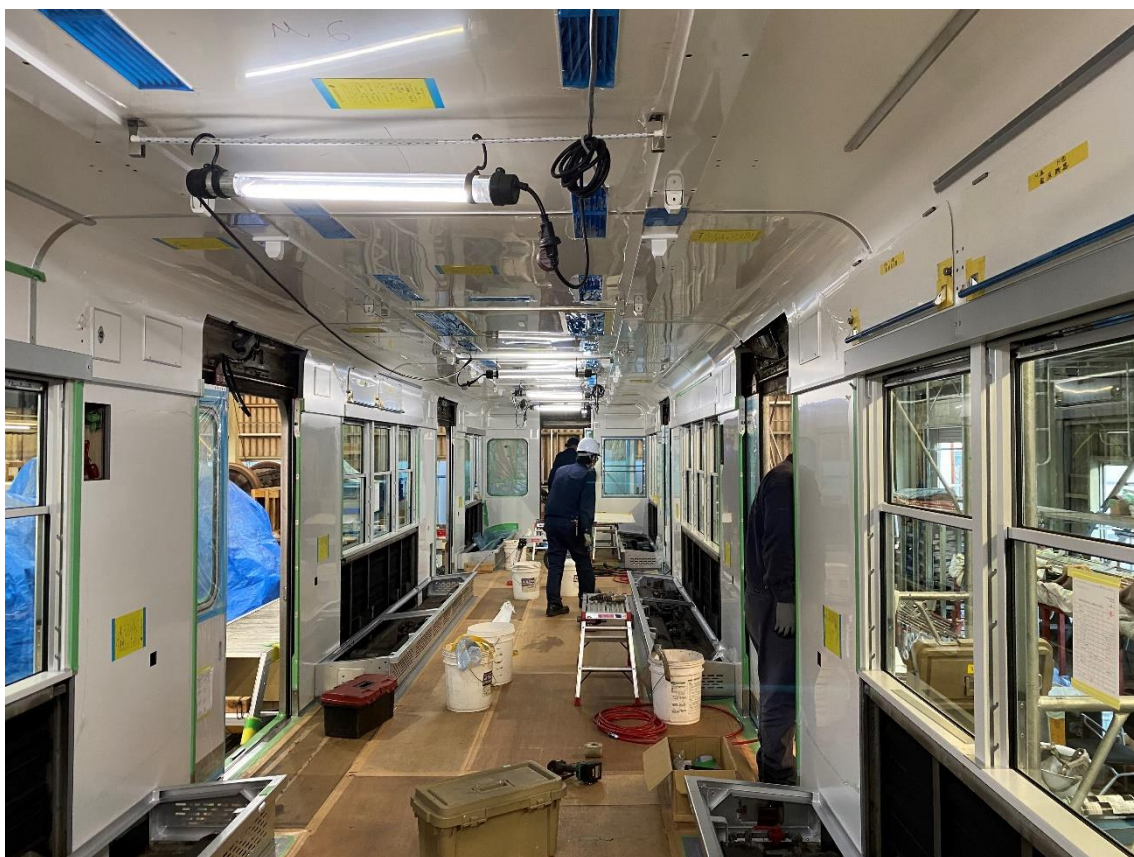
銀1色の3000系もカッコいい!!

取り付けについては、ガラス関係も大変です。特に運転台の窓ガラスは曲線なので、技術がいます。ちなみに、運転台の窓は真ん中に梁があって、左右それぞれ別のガラスを取り付ける形です。

3000系の窓枠の押さえには、Hゴムが使われています。昭和30年から50年代に製造された車両には多く見られましたが、最近はない構造ですね。

まずHゴムを車体に取り付けてから、木のヘラを使い、そこへガラスを傷つけないよう、はめ込んでいきます。

ガラスは力加減を間違えると、すぐに割れてしまいます。運転台の窓ガラスは他と比べて分厚いのですが、側面の行先表示器のガラスは少しでも力加減を間違えると、すぐに割れてしまいます。



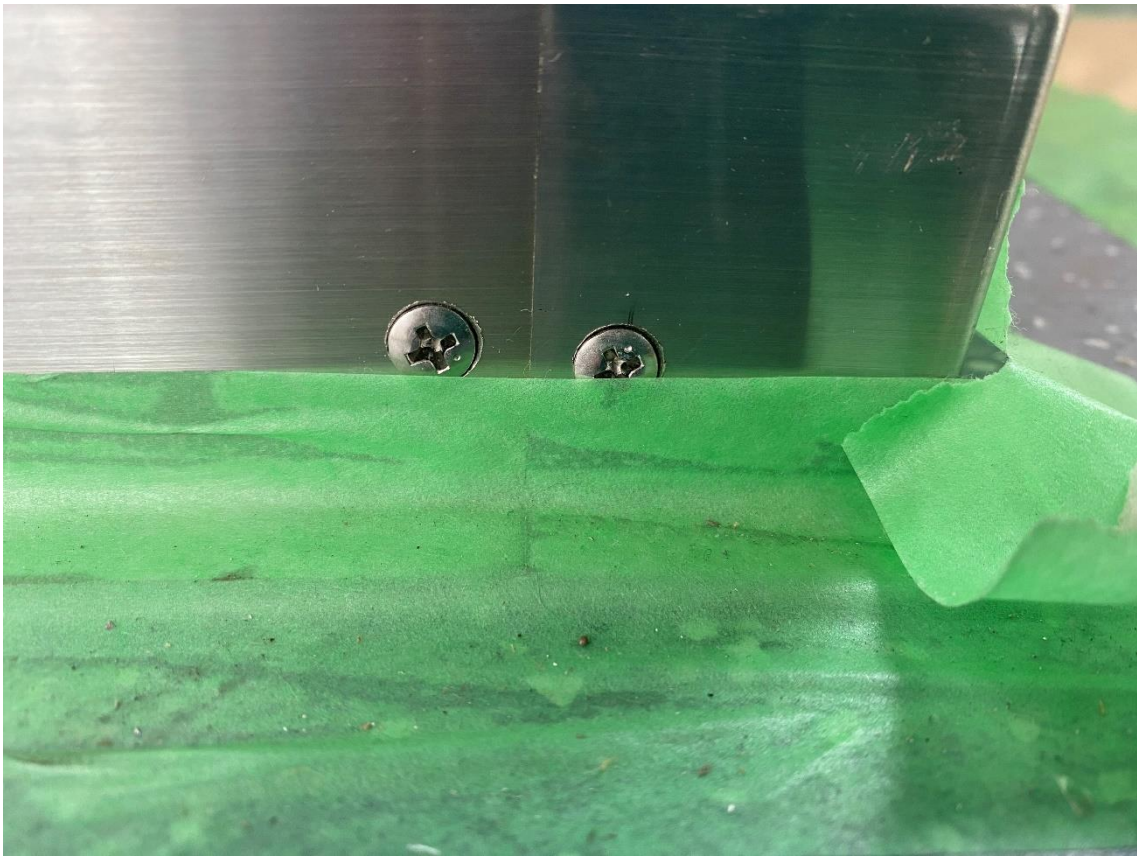
真っ白な化粧板は車内を広く見せます。

次に、化粧板や座席の基礎部分を取り付けていきます。化粧板は真っ白で、非常に綺麗です。白は空間を広く見せる効果があります。

化粧板を取り付けるときは、合わせ面を考えて、見栄えが良くなるよう工夫しながら行っていきます。



丁寧に巾木を取り付けていきます。



綺麗に面合わせできています。

化粧板や座席の基礎部分の次は、巾木を取り付けていきます。巾木と聞いても？マークが頭に浮かぶかもしれませんが、皆さんが住んでいる家にも巾木はあります。

巾木は、床と壁の境目に取り付ける部材。床材と座席などの部材の間には、どうしても隙間ができてしまいます。それを塞いでくれるのが巾木です。

巾木は寸法に合わせて切り、取り付けていきます。巾木の継ぎ目部分の面はヤスリを使って合わせるのですが、これが非常に難しいです。少しでもズレると隙間ができてしまうので、努力して技術とセンスを身につけなければいけません。

座席の取り付けは声掛けが大事！

続きは“鉄道専用”SNS「Railil（レイリル）」をご覧ください。  
Raililの詳細とダウンロードは以下のリンクよりご確認いただけます。

Railil : <http://www.jrw-inv.co.jp/business/railil/>